

みおしえ

「他人の過失を見るなかれ。他人のしたこととしなかつたことを見るな。ただ自分のしたこととしなかつたこととだけを見よ。」(法句經五中村元訳参照)

この法は、仏が、サーヴァッテイ(舎衛城、祇園精舎)に住んでおられたとき、パーヴェツヤというアーシヴァカ(裸行者)について説かれたものである。

伝えによれば、サーヴァッテイ(舎衛城)のある裕福な女性にパーヴェツヤ行者を迎え、息子として世話をした。ときに、彼女は仏の噂を聞き、仏を家に招待した。行者は彼女が仏の法を聞くことに嫉妬した。彼女が法を聞いていると、後方の部屋に坐っていた行者は、突然出てきて、彼女と仏を罵った。彼女はその言葉に恥じ、そのため心が乱れ、教えのとおり智に向かうことができなかった。そこで仏は、「このような異教者の言葉に耳を傾けるべきではありません。自分のすること、しないことのみを観るべきです」と言いつつ、この法を示された。説法の終わりに、彼女は預流果を得たという。これが法句五〇の因縁話である。

《教え》 分かりやすい内容である。しかし実行すると、他人の過失を難し。他人の過失を観るべきでない」とは、他人の誤った、粗暴な、断末魔の言葉に意を注ぐべきではない、ということである。「ただこれのみを観るがよい」とは、自己の行為が無常・苦・無我の観により見て、自己の一切は無常・苦・無我であり執着するなと言ふことである。そうすればこのように自分のすること、しないことが無常でありと分かり寂靜の真我に至るとの教えである。

(ダンマパダ全詩解説 片山一良参照)

心の言葉

他人の過失を見ず。他人のしたこととしなかつたことを見ず。ただ自分のしたこととしなかつたこととだけを見て無常を知り、永遠の真我にいたれ。

お題目で成仏する十四

日蓮聖人は法華經を持つこととの難しさを「受るはやすく、持はかたし。さる間成仏は持にあり」(四条金吾殿御返事)

とお説きですが、その中で成仏とは南無妙法蓮華經とお題目を持つことであると仰せです。私たちは、お題目を持っていますときは、成仏しているということがあります。またお題目を持っていないければ成仏していませんと云う事になりますか？

仏とは宇宙の大生命であり、私たちがその本仏と一体であるとき成仏していると云う事になります。それは、私たちが本仏から分かれ出た命で本来仏なので、南無妙法蓮華經と唱えて本仏と一体になった時こそ本仏の成仏と言えらるからです。

御本仏こそが本仏の命であり、私たちが命は、その部分であり御本仏の命のワンピースです。私たちが一人一人が本仏の命である大宇宙の御本仏になるといふことは、南無妙法蓮華經と唱えて本仏の命を南無妙法蓮華經と本仏につなぐことが出来れば、現実的に成

南無妙法蓮華經とは、妙法とアクセスすること。私たちが心がつながっているとき私たちが成仏しています。その時、胸の中に法華經に説かれてくる本仏の願いが私の心の中にダウンロードされてくるんです。ほんとに本仏の徳が私どもの心にダウンロードされてくるんです。仏の魂、情熱があなたの心に伝わってきます。

そして私たちが仏の全てのピースとつながるとき、全ての存在が一つの仏となります。